

# 5 課

5月2日

## 聖書のみ

——「ソーラ・スクリプトゥーラ」



安息日午後 4月25日

今週のテーマ

### 暗唱聖句

というのは、神の言ことばは生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髓とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。(ヘブル4:12、口語訳)

というのは、神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髓とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。(ヘブライ4:12、新共同訳)

### 今週の聖句

Iコリント4:1～6、テトス1:9、IIテモテ1:13、マルコ12:10、26、ルカ24:27、44、45、イザヤ8:20

「聖書のみ」(「ソーラ・スクリプトゥーラ (ラテン語) ) というプロテスタントの主張は、聖書を神学の唯一の基準、かつ決定的情報源に高めています。聖書と伝統(言い伝え)の両方を強調するローマ・カトリックの神学とは対照的に、プロテスタント信仰は「のみ」を強調しました。つまり、信仰や教理の問題が争点になるとき、聖書だけが最終的権威だということです。

プロテスタントの改革、ローマとローマが何世紀にもわたって教えてきた誤りに対するプロテスタントの抵抗、それらに決定的な力と最終的権威を与えたのは、聖書でした。異なるさまざまな意味を聖句に読み込む比喩的解釈に対して、プロテスタントの改革者たちは、聖書の文法と歴史的解釈の重要性を強調しました。それは、聖句の文法的意味や文字どおりの意味を真剣に受け止める解釈法でした。

私たちは今週、「ソーラ・スクリプトゥーラ」について、これまで以上に詳しく考えるでしょう。私たちは、「ソーラ・スクリプトゥーラ」が神の言葉の適切な理解に不可欠な聖書解釈の基本原則を意味することを学びます。プロテスタントである私たちは、究極的な教理上の権威として聖書を擁護しなければなりません。

セブンスデー・アドベンチストは当初から、自分たちが聖書の民であると、つまり聖書を信じるクリスチャンであると考えてきました。聖書のみ（ソーラ・スクリプトゥーラ）という聖書の原則を支持するために、私たちは聖書の比類なき権威を認めます。聖書だけが私たちの神学の支配的基準であり、人生と教理の究極の権威です。宗教的経験、人間の理性、伝統といったほかの諸要素は、聖書に従属しています。実際、「ソーラ・スクリプトゥーラ」の原則は、教会とその解釈への依存から聖書の権威を守ることを目的とし、聖書を解釈する基準が聖書の外からやって来る可能性を排除しました。

**問1** 1コリント4:1~6(とりわけ6節)を読んでください。その中でパウロは、「書かれているもの以上に出(る)」べきではないと言っています。私たちの信仰にとって、なぜこの点が重要なのですか。

書かれているもの以上に出ないというのは、(聖書考古学や歴史など)ほかの分野の研究から得られる洞察を排除することではありません。ほかの分野が聖書のある側面や聖句の背景に光を投げかけ、それによって私たちが聖書の言葉をより良く理解する手助けをしてくれることはありえます。解釈の作業の中で、辞書、聖書語句索引、注釈書、さまざまな書籍など、ほかの資料の助けを借りることも排除しません。しかし聖書の適切な解釈において、聖書の聖句は、ほかのあらゆる側面、科学、二次的資料に優先します。聖書以外の見解は、聖書全体の観点から注意深く評価されねばなりません。

「ソーラ・スクリプトゥーラ」の原則を実践する際に私たちが積極的に支持することは、もし私たちの信仰の解釈において対立が生じたなら、聖書だけが、ほかの資料や教会の伝統(言い伝え)を判定する権威、それらに勝る権威を有するということです。私たちは聖書に付加したり、書かれていることに逆らったりしてはなりません。真のキリスト教、真の確信、真の福音宣教は、聖書の権威を優先することにかかっているのです。

「聖書だけが、地球上のあらゆる著作物や教理の真の<sup>あるじ</sup>主、主人である」(マルティン・ルター『ルター著作集』第32巻ヤロスラフ・ヤン・ペリカンほか編11、12ページ、英文)。

使徒言行録17:10、11を読んでください。これらの聖句は、聖書の優位性について私たちがここで語っていることを、どのように伝えていきますか。

聖書は自ら、「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ」（Ⅱテモ3:16）しており、「聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではない……。なぜなら、預言は、……人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだから」（Ⅱペト1:20、21）と主張しています。聖書の究極の著者が神であるがゆえに、私たちは、聖書が教える重要な諸問題に関して、聖書のさまざまな箇所には基本的な一貫性と調和があると信じています。

## 問2 テトス1:9、Ⅱテモテ1:13を読んでください。私たちの信仰にとって、聖書の一貫性はなぜ重要なのですか。

聖書に内在する一貫性、つまり神の靈感に由来する一貫性があるからこそ、聖書は聖書それ自身を解釈するものとして機能することができます。もし聖書の教えに全体的な一貫性がなかったとしたら、いかなる問題に関する教理においても一貫性を見いだせなかったでしょう。聖書に一貫性がなければ、教会は真理と誤りを区別したり、異端を拒絶したりする手段を持たないでしょう。また、懲戒処分を行ったり、神の真理からの逸脱を矯正したりする根拠を持たないでしょう。一貫性がなければ、聖書は説得する力や解放する力を失うでしょう。

しかしイエスと聖書記者たちは、聖書に一貫性があると想定しており、その一貫性は、聖書の起源が神にあることに基づいています。このことは、彼らが旧約聖書のいくつもの書卷から等しく、満遍なく、習慣的に引用していることからわかります（ロマ3:10～18参照。パウロはここで、コヘレトの言葉〔7:20〕、詩編〔14:2、3、5:10（口語訳5:9）、10:7〕、イザヤ書〔59:7、8〕からの引用聖句を用いています）。

聖書記者たちは、聖書が首尾一貫した統一体であり、その中で大きな主題が展開されていると考えました。旧約聖書と新約聖書の間には不一致がありません。新約聖書は、新しい福音や新しい宗教を含んでいるわけではありません。旧約聖書は新約聖書の中で明らかにされており、新約聖書は旧約聖書を土台にしています。このように、旧新両約聖書は、互いに光を照らし合うような相互関係にあるのです。

聖書の一貫性はまた、私たちが聖書のある主題を研究するとき、単独の言葉にだけ基づいて自分たちの教えを作り上げたりするのではなく、聖書全体（「トータ・スクリプトゥーラ」）を考慮に入れるべきであることも意味します。

聖書の中で、相反するような聖句や考えに出会ったとき、私たちはどうすべきですか。それを解決するために、どのような努力をしたらよいのでしょうか。

もし聖書の文章の意味が不明瞭なら、いくら聖書のみと主張したところで、ほとんど意味がありません。

**問3** マタイ 21:42、12:3、5、19:4、22:31、マルコ 12:10、26、ルカ 6:3、マタイ 24:15、マルコ 13:14 を読んでください。イエスが繰り返し聖書を引用していることは、聖書のメッセージの明瞭さについて何を意味していますか。

聖書のあかしは曖昧<sup>あいまい</sup>ではありません。聖書が教えていることは十分に明瞭です。聖書は明瞭なので、特に最も基本的な教えに関しては、大人と同様、子どもでも理解することができます。それにもかかわらず、私たちの知識と理解が深まる機会は無限にあるのです。聖書の意味を提供するのに、私たちはいかなる教会の教導職も必要としません。それどころか、聖書の基本的な教えは、すべての信者が理解できます。聖書は、司祭職のような選ばれた少数者にその解釈を限定するのではなく、すべての信者を祭司とみなしています。それゆえに聖書の中で、私たちは自ら聖書を研究するように奨励されています。私たちは神のメッセージを理解できるからです。

このことは、次のように指摘されています。「聖書記者たちの一貫した模範は、明らかに比喩が意図されていない限り、聖書をそのままの意味、字義どおりの意味で理解すべきことを示している。……手ほどきを受けた人だけが見いだせる神秘的で寓話的な隠された意味という『殻』を得るために、字義どおりの意味という『実』を捨てることはできない」(『セブンスデー・アドベンチスト神学ハンドブック』65ページ、英文)。それどころか、聖書の言い回し、意味、言葉には明瞭さが付き物です。なぜなら聖句には、主観的で制御されていない多くの意味があるのではなく、聖書記者たちによって意図された明確な真理があるからです。

これは、時として私たちが、十分に理解したり、把握したりできない聖句や考えに出会うことではないという意味ではありません。結局のところ、この聖書は神の言葉であり、私たちは墮落した人間にすぎないので……。それにもかかわらず、神の言葉は、私たちがどうしても知って理解する必要のあること、とりわけ救いの問題に関することに関しては十分に明瞭なのです。

いくつかの聖句が理解できず、結局、あとになって意味が明らかになったときのことを思い浮かべてください。あなたはその経験から、同様のことで悩んでいる人の役に立つかもしれないどんなことを学びましたか。

根本的な一貫性があるからこそ、聖書は自身を解釈するものとして機能することができます。そのような一貫性がなければ、自身の意味を明らかにする光にはなりえません。聖書のある部分がほかの部分解釈し、関連する箇所を理解する鍵になるのです。

**問4** ルカ 24：27、44、45 を読んでください。御自分が何者であることを説明するために、イエスはどのように聖書に言及されましたか。このことは、私たちがどのように聖書を利用できるかということについて、何を教えていますか。

聖書で聖書を解釈させることの利点は、聖書が自身の意味をさらに明らかにすることです。その際に私たちは、自分の意見を証明するためにさまざまな聖句を見境なくつなぎ合わせるものではありません。そうではなく、それぞれの箇所の文脈を注意深く考慮します。調べている箇所の前後の文脈に加えて、書巻の背景も考慮に入れるべきです。さらに、パウロによれば、「かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのもの」(ロマ 15：4)なので、与えられた主題について聖書が述べているすべてのことを、私たちは研究すべきです。

「聖書の解説者は聖書自体である。聖句と聖句を比較してみなければならない。研究者は、聖句の言葉を全体の立場からながめ、それから部分的な関係を考えてみることを学ばなければならない。聖書の重要な中心課題すなわち人類に対する神の初めの御目的、大争闘の始まりと救済の働きの原因について、知識を得なければならない」(『教育』164 ページ)。

聖句と聖句を比較するとき、聖書を徹底的に研究することが重要です。もし可能であれば、原語で研究するか、少なくとも原語のヘブライ語やギリシア語に含まれている意味を忠実に訳している適切な聖書を使用すべきです。原語の知識は聖書をよく理解するために必ずしも必要ではありませんが、可能であれば、それは確かな助けとなります。そうでないとしても、謙遜と服従の態度で聖書を忠実に祈りつつ研究すれば、間違いなくすばらしい実を結ぶでしょう。

例えば、死者の状態のような教理を考えると、選び出した少しの聖句にだけ焦点を合わせ、ほかの箇所を無視するなら、誤った理解をしてしまう可能性があります。このことは、聖書が教えていることを最もよく理解するには、ある主題について聖書が述べているすべての箇所を集めて読むことがいかに重要であるかということについて、何を教えていますか。



問5 イザヤ8:20を読んでください。私たちの教えと教理の基準として、聖書の「教えと証し」を参照することは、なぜいつも重要なのですか。このことは、聖書という聖典の一部にならなかった預言者たちの働きについて、どういうことを意味しますか。

「ソーラ・スクリプトゥーラ」（聖書のみ）について語るとき、セブンスデー・アドベンチストは避けがたく、エレン・G・ホワイトをどう扱うべきかという問題に直面します。彼女もまた、神によって靈感を受け、神の残りの民に遣わされた使者として奉仕しました。彼女の著作物と聖書は、どのような関係にあるのでしょうか。

エレン・G・ホワイトの著作物にざっと目を通しただけでも、彼女にとって聖書があらゆる思想と神学の基礎であり、中心であったことがはっきりわかります。それどころか、彼女は、聖書があらゆる教理、信仰、宗教的実践の最高の権威、究極の基準であると繰り返し認めています（『希望への光』1888 ページ、『各時代の大争闘』下巻 360 ページ参照）。さらに、「ソーラ・スクリプトゥーラ」といプロテスタントの偉大な原則をはっきり支持し、擁護しました（『希望への光』1592 ページ、『各時代の大争闘』上巻 (3) ページ参照）。

エレン・G・ホワイト自身の見解によれば、彼女の著作物は、聖書と比べると、「より大きな光へ人々を導く小さな光」（『アドベンチスト・レビュー・アンド・サバス・ヘラルド』1903年1月20日号、英文）でした。彼女の著作物は、真剣な聖書研究への近道でもなければ、それに代わるものでもありません。実際、彼女は次のように述べています——「あなたがたは聖書をわかっていない。もしあなたがたが、聖書の基準に達したい、クリスチャンとして完全の域に達したいという願いを持って神の言葉を研究していたなら、証の書を必要としなかっただろう。靈感を受けた神の書物、神がわかりやすく直接的なあかしによってあなたがたに伝えようとなさった書物に習熟することを、あなたがたが怠ったからである」（『教会への証』第2巻 605 ページ、英文）。

そのため、エレン・G・ホワイトの著作物は、正しく評価されるべきです。それらは、聖書記者たちが受けたのと同じ靈感を受けていますが、その機能は、聖書の機能とは異なります。彼女の著作物は聖書に追加されるものではなく、聖書に従属するものです。彼女は、自分の書いたものが聖書の代わりになることをまったく意図していませんでした。それどころか、信仰と宗教的実践の唯一の基準として聖書を高く掲げていたのです。

参考資料として、『教育』第5部 聖書の教育的価値「聖書の教えと研究」の章を読んでください。

「聖書を研究するときには、学ぶ者としての精神をもって聖書に接すべきであることを教えられなければならない。自分の意見を裏づけるために聖書のページをめくるのではなく、神が仰せになっていることを知るために聖書を学ぶのでなければならない。

聖書についての真の知識は、このみ言葉をあたえられた聖霊の助けによってのみ得られる。そしてこの知識を身につけるには、これを生活に実践しなければならない。われわれは神のみ言葉の命ずるすべてのことに従わなければならない。……

聖書の研究には、最も勤勉な努力と忍耐強い思考が必要である。坑夫が地中の金鉱をもとめて掘るように、われわれは神のみ言葉という宝を熱心に根気よくさがさなければならない」（『教育』162ページ）。

「あなたが聖書を自分の食べ物、飲み物とするとき、聖書の原則をあなたの品性の構成要素とするとき、神からの勧告の受け入れ方がもっとよくわかるだろう。私はきょう、あなたの前に貴重な言葉を高く掲げる。『ホワイ姉妹がこう言った』『ホワイ姉妹がああ言った』などと言って、私が語ったことを繰り返してはならない。イスラエルの神が言われることを見だし、彼がお命じになることを行いなさい」（『セレクトッド・メッセージ』第3巻33ページ、英文）。

### 話し合いのための質問

- ① ある主題に関して聖書が述べているすべてに目を向けず、選び出した一部の聖句だけを見て人々が誤って信じていることには、どのようなものがありますか。
- ② イエスはマタイ 11:11 で、バプテスマのヨハネについて——「はっきり言っておく。およそ女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネより偉大な者は現れなかった。しかし、天の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である」と、聖書を書かなかった預言者について述べられました。私たちはこのことから、真の預言者は聖書の書巻を書いていなくても真の預言者であるということについて、何を学べますか。このことから、私たちセブンスデー・アドベンチストは、どのようなメッセージを受け取ることができますか。
- ③ 聖書が最終的権威であると主張しているのは、アドベンチストだけではありません。ほかの教会も同じように主張しています。ほかのクリスチャンたちが聖書の中に見いだしたと主張する正反対の教理を、私たちはどのように説明したらよいのでしょうか。